

2010 道東TCM10月 報告書(U-13)

期 日 平成22年10月30・31日(土・日)

会 場 幕別町札内川河川敷サッカー場

1. 参加選手(計12名)

齊藤茅人、森 康起(以上SC釧路)、柳本悠希、中尾謙太、松野史靖、佐藤雄也、高倉 響(以上R・シュペルブ)、阿部雄馬、成田涼弥(以上景雲)、関向崇裕(富原)、林 賢佑、東虎次郎(以上阿寒庶路白糠音別合同チーム)

2. はじめに

トレセンマッチの経験(参加回数)が少ない選手を中心に構成した今回の遠征、12名という少ない人数にはちょうどよい試合数であった。夏季のまとめともなる今回の遠征で、個々が大きく成長するために、バスの中ではこれから始まるゲームに向けて気持ちの準備(サッカーをしに行く、戦いにいくということ)をしておくよう伝えた。また、2日間を通じての目標を攻撃面と守備面に分けて考えさせ、ウォーミングアップを始める前に発表させた。それぞれ、自分なりの目標をしっかりと考え、設定することができていた。

2日間のウォーミングアップやゲーム前のミーティング、夜のミーティングでは以下のようなことを確認した。

《攻守にわたって》 常に観ておくこと

《攻撃》 **ポジショニング**

～ボールの移動中、守→攻に変わった瞬間に幅と深さ。ゴールを意識する。

～味方(ボール保持者)に対して、「前」と「横」にパスコースをつくる。

プライオリティー

～FWは、まずDFの背後のスペースを狙う。スピードの変化で味方に伝える。

～MF, DFは、ボールを受ける前に「前」と「横」を観ておく。

サポートの質

～ボール保持者の状況によって、サポートの位置を変える。(顔を出す)

プレーの質

～パスは、芝生の上で止まらないように走らせる。軸足の踏込み。蹴り足の押し出し。

～何気ないショートパスも強く=相手DFの準備の時間を作らせない

～スペースがあったらドリブルの選択肢。ドリブルも首を振って観ながら。

《守備》 **ポジショニング**

～自分のマークすべき相手は誰なのかをはっきりさせる。ボールと相手、両方を観る。

～2ndDF、3rdDFは、1stと相手の状態をよく観てポジショニング

アプローチ→チャレンジ

～1stDFは、ボールの移動中に寄せる。相手から簡単に離れないように粘り強く対応する。

～奪えなくても、自由にプレーさせないこと。ミスを誘う。

カバーリング

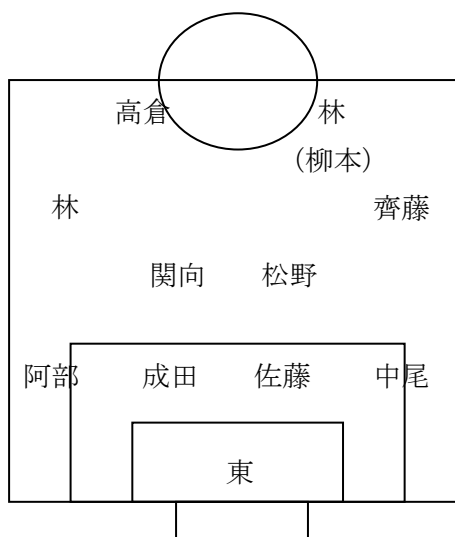
～1st が奪いに行っている後ろで傍観者にならないこと。インターセプトを狙える準備（姿勢、観る、予測）をしておく。

～守備の塊をつくる。サイドに追い込む。

3. ゲーム

1 試合目 vs 中部トレセン (30分) 1-1

得点：①松野



《攻撃》

Off の関わりが薄い。パスコースになる準備が遅いため、ボール保持者が長く持つ場面が多かった。また、ドリブルを選択してもヘッドアップしてのドリブルができないため、2, 3 人のDFに囲まれて奪われてしまっていた。

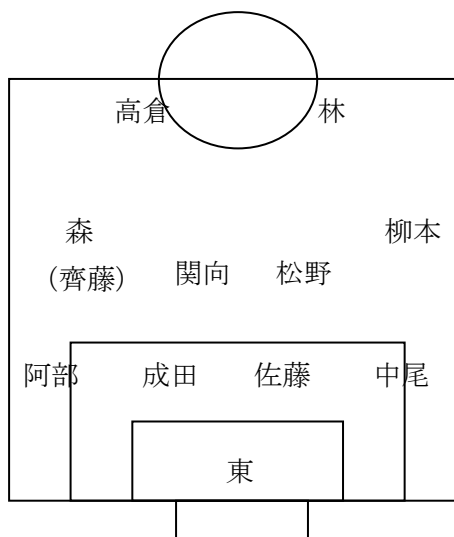
得点は生まれたが、内容的には悪く、個人技能に頼るばかりのサッカーであった。

《守備》

1st DF が積極的にボールを奪いに行くことで、相手のパスミスを誘うことができた。しかし、2nd DF の準備が悪く、ボールをチームで奪いきることができなかった。自分の相手とボールを観ておくこと、常にインターセプトを狙う準備をしておくことが課題。失点はコーナーキックをGKがはじいたボールにDFが寄せることができず、押し込まれた。

2 試合目 vs 東部トレセン (30分) 3-0

得点：①林 ②松野 ③柳本



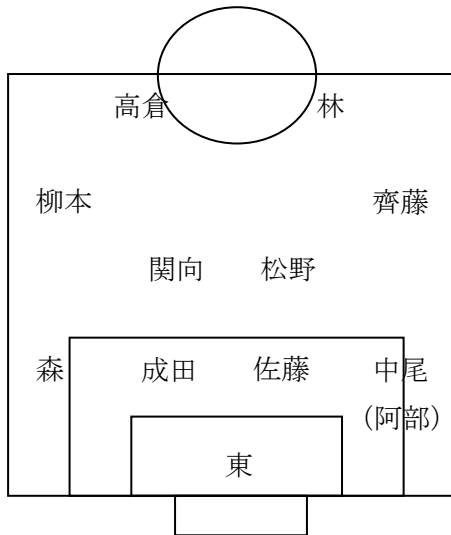
《攻撃》

Off の関わりを改善しようとミーティングで話した。ボール保持者の状態を観て、前と横へのパスコースを作る意識が出てきた。また、FWの裏への飛び出しが多くみられるようになり、攻撃に幅と厚みが出てきた。空いたスペースでボランチがよく顔を出せていて、非常に良い攻撃であった。

《守備》

1 試合目の課題であった、2st DF の準備を意識できてきたことで、インターセプトでボールを奪える場面が多くなった。また、粘り強く追いつけることで、サイドに守備の塊ができ、ボールを奪いやすい状況が自然とできていた。

3 試合目 vs 北部トレセン (30分) 0-0



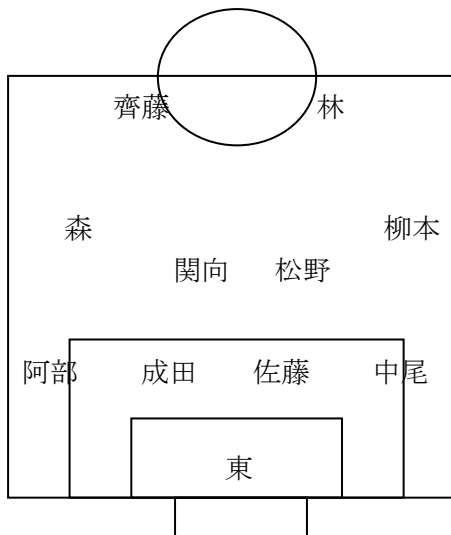
《攻撃》

昨日の課題を意識して、ポジショニングをとることができていた。また、相手の裏を狙う意識が非常に強まり、FW、サイドが積極的に飛び出そうとしていた。しかし、ボール保持者が遠くを観ることができない、あるいは蹴れないなどが原因で、ショートパスが多くなり、ボールを失う場面が多かった。

《守備》

攻⇄守の切りかえの場面でのポジショニングが遅く、正しいポジショニングでの1対1ができなかった。特にボールに対して逆サイドのポジショニングは理解不足で、相手にスペースを与えてしまっていた。

4 試合目 vs 中部トレセン (30分) 0-0



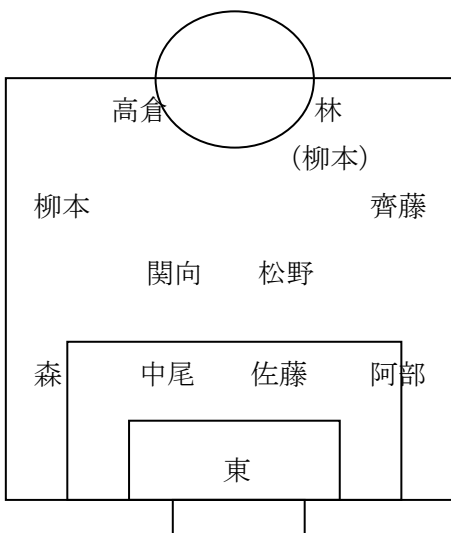
《攻撃》

中部は15分でメンバーを総入れ替え。内、前半15分は速いプレスを受け、ボールを運ぶことができず、バイタルエリアにも侵入することもできなかった。また、近くの選手しか視野に入らず、ショートパスが多くなり、同サイドでの攻撃のみになる場面が多かった。少々速いプレスを受けるとプレーができなくなる選手が多い。やはりここが釧路の大きな課題の1つだろう。

《守備》

サイドにボールがある時のそれぞれの役割を確認してゲームにのぞみ、攻⇄守の切りかえを素早くするよう話した。その結果、よりコンパクトな守備ができるようになった。自分たちのミスでボールを失っていたが、相手に支配されるようなことはなかった。

5 試合目 vs 北見 (30分) 0-4



スピード、パワーで上回る相手に完全に圧倒されたゲームであった。4失点のうち、3失点はDFの裏を取られた。足が止まり、1st DFがアプローチに行けなくなっていたことが大きな原因である。それによって2ndの準備が難しくなり、中途半端なポジショニングから裏を取られてしまった。また、1st DFの状況が悪いのにも関わらずカバーリングポジションを修正できず無謀な状態からインターセプトを狙ってしまう場面もあった。

これからの課題・目標という意味では、選手にとってもスタッフにとっても、非常に印象的で貴重なゲームになったと思う。

4. 全体を通して

今回のように宿泊をともなう遠征は、非常に有効であるということを改めて感じた。遠征に向かうにあたって、「個人目標」を考えさせ、それをもとに、夜の時間を使ってじっくりミーティングができた。ミーティングは選手一人ひとりがサッカー理解を深める時間になっただけではなく、それが、チームとしての共通理解につながったと感じている。今回は、遠征回数の少ない選手で構成されたが、個々の大きな成長を、スタッフも選手自身も感じることができた。今年度の釧路トレセンU13としての遠征は最後になる（※）が、次年度以降もこのような機会を有効に選手のレベルアップにつなげていきたいと考える。

※道東ブロックトレセンU13としての遠征は11月、12月、1月に行われます。

5. 冬季トレセンに向けて

今年度の外でのトレセン活動もこれで終了となり、これから鳥取ドームでのトレセンが始まる。

施設の広さから、鳥取ドームでのトレーニング内容は限られてくるが、今年5月の報告書に挙げた課題（下記）を1つでも2つでも改善するために、非常に重要な5か月となる。北海道の選手にとっては「オフシーズン」という意識が強いかもしれないが、そうではない。春までに確実にレベル上げるための重要な5か月間。選手も下記の課題をしっかりと意識してほしい。

攻 撃

「観る」→習慣化

「止める」「蹴る」の質→蹴り方、正確性、パススピード

→動きながらのコントロール、置き所

「ポゼッション」

→攻撃の原則の理解、パスコースになる、動き出しのタイミング、相手との距離

守 備

「観る」→習慣化

「Offの守備」→ポジショニング（良い準備）、守備の優先順位の理解、コーチング

「Onの守備」→積極的に奪いに行く、ステップワーク、粘り強い対応

攻→守の切りかえ

「観る」→習慣化

「スピード」→1stディフェンダーの決定、アプローチのスピード

「ポジショニング」→2nd、3rd…のポジショニング

守→攻の切りかえ

「観る」→習慣化

「スピード」→拡がり

「ポジショニング」→ゴールと相手の状況を観て判断